

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 山田敬
山行番. NO. 2018	
日 時 2023年5月4日(木) 無風・快晴・高温	
山 域 唐松岳(最高到達点2696m)	
コース 5月3日 白馬村「水車小屋」宿泊 5月4日 八方駅ロープウェイ登山口8:00—八方池山荘8:40—唐松岳12:10—八方池山荘15:00—八方駅ロープウェイ登山口15:40—みみずくの湯17:00—帰宅21:30	
標高差 上り・下り 唐松岳2696m 累計標高差=991m	
データ 三島～神城(水車小屋)=287km 有料(大月経由)=3060円(軽車両)	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
北アルプスは山の宝石箱や～	
参加者 井上、山田=2名	

今回はゴールデンウィークの連休を利用して普段より足を伸ばした場所である白馬の唐松岳に。個人的には2ヶ月ぶりの山の会の参加で体力的に耐えられるか心配だったが、1泊2日の余裕のある行程だったので旅行気分。

5月3日から自分の車で白馬まで約4時間で移動。他のGさん、Kさん、Iさんは5月2日から行動しており、宿泊予定先で合流。宿泊先は「水車小屋」という名前なので、勝手に山小屋のイメージを持っていたが、自炊器具や寝具もきちんと用意されて、快適な宿泊施設だった。



神城・水車小屋

5月2日の山行が激しかったということでGさん、Kさんは翌日の山行は回避、唐松岳はIさんと私の2名で行くことになった。

翌日、5月3日6時30分には宿を出発して、白馬八方尾根スキー場の Gondola 搭乗口の

駐車場に7時前に到着。7時にはすでに20名ほどの行列。

ゴンドラとその先にあるリフトにも乗っていくので、往復3200円。開門となる7時45分には100名近くは並んでいた。

並んだ順に終点まで乗り、八方池山荘駅に到着。天候は雲ひとつない快晴。普段このあたりは強い風が吹くことも多いらしいが、ほぼ無風。日差しも強く、歩き出すと、すぐに暑い。

冬の服装も持ってきたが、Kさんのアドバイスどおり今日は軽装で正解だった。



ゴンドラ乗場口

観光としてリフトで上ってくる人たちはこの八方池くらいまで歩いてくるのかもしれない。確かに階段も一部整備されている。しかし八方池山荘から八方池まではガレ場が続き、決して歩きやすいところではない印象だった。

八方池から20分ほど進んだところで雪面の登りが現れたので、ここでアイゼンを装着。この後、雪面の登りと雪溶けした土と岩場の斜面が交互に現れる。

アイゼンをつけたまま雪のない岩場をガチャガチャ登るのは心地よくはない。しかし、景観がそんなことを忘れさせるくらい素晴らしい。北アルプスを登るのは初めて。これまで登った山と比べて、1つ1つの山のスケールが大きい。北アルプスの森林限界は標高2500m前後で、森林限界を超えた上部の世界では、風や雪などによる侵食作用が常に働いていて、こうした侵食作用によって山は崩壊を続け、険しい地形をつくりあげたそうだ。近くで切り立つのは白馬岳だ。下を見下ろすと、溪谷が深い。落ちたら終わりだなと思うと、より迫力を感じる。

標高も2300mになり雪面の登りが多くなる。丸山ケルンを通過して。唐松山荘に到着。

リフトを降りてからここまで約3時間。劔岳が真正面に見えて、素晴らしい景観。秀麗な山容と峻険な稜線が目の前から何層にも複雑に折り重なって広がっており、いつまでも見ているとも見飽きない。

景色もいいので、ここでお昼を食べている人も多くいた。めざす唐松岳まであと 30 分。唐松岳までの稜線が見えている。



八方山



唐松岳（左上の雪形が鳳凰に見える??）

Iさんと話し合っ、あとひと頑張りして、お昼は唐松岳で食べるか、山頂まで行ってここに戻ってから食べるかにしましょうと決めて、再スタート。

12時9分唐松岳到着。山頂は広くないが、360度のビューが素晴らしい。

座るスペースがあったので、山頂で食事をしながら、道中、我々とほぼ同じペースで歩いてきた人たちと話したら、ゴールデンウィークの期間を活かして、北アルプスの山々を

天候と自分の体調を考えて自由に登っている人や、唐松岳から五竜岳に縦走する人など、いろいろ。住んでいる地域も全国様々で、さすが人気の北アルプス、みんな連休を使って楽しみに来ているんだなと思った。



中央が剣岳



井上

食事をとって一息ついて12時35分、下山開始。リフトの終了時間は16時なので、ペー

スをあげて降る。

アイゼンは下山途中で外れたついでにはずしてしまった。しかし、道中の雪は気温上昇もあって、シャーベット状になっており、下りの雪面を降りるときはやはりアイゼンがあったほうが滑らず、スムーズにおりることができたと思う。

15時00分すぎに八方池山荘到着。トータル標高差は1000メートルもなかったが、雪面をアイゼンで歩いたりしたので、足も疲れてガックガク。久々の登山にはちょうどいい難易度だった。

今回は1泊2日で帰りの移動後、翌日も休めたので、ゆとりを持って移動や準備ができ、行程も楽しめた。白馬まで来れば夏は涼しそうだし、八方尾根は紅葉もすばらしいようだ。

アルプスの魅力も知ってしまったので、また2,3日休みをとって行ってみたいと思った。



唐松岳山頂・山田

その他の記述（後藤）

水車小屋の主人は柏原孝至さん。私と同じ年だった。しかも、2014年「神城断層大地震」で脛骨骨折の大怪我をした。何か境遇？が似て、意気投合してしまった。

怪我は、後遺症も残るが、現在は野良仕事を出来るほど回復した。入院・リハは大変だったが、「よく生きていた」と感慨深げ。

白馬三山を仰ぐ居間に立派な仏壇があった。お母さんに尋ねたら、三年前に長男のお嫁さんを病気で亡くしたという。

隣の大町で保母さんをしていたという。子供さんは三人。現在、一番下の孫と同居。お母さんは、「これから、いろいろ教えたかったのに・・・」と言葉少なげだった。最近、ようやく「前を向けるようになった」と話していた。

僭越だが、お経を上げさせて貰った。人生は分からない。ベストに生きよう。



左・孝至さん



美人のお母さん



居間から白馬三山（白馬、杓子、白馬鎗）